2026 年 10 月 1 日 | No. 151

国際センター通信

Japan Society of Civil Engineers International Activities Center

国際センター通信とは？

土木学会の国際活動や技術交流に関する情報を集め、国内外の読者の皆さまにお届けしています。

・国際センターおよび海外支部（英国、韓国、台湾、トルコほか全 9 分会）の最新の取り組み
・ACECC（アジア土木学協会連合協議会）の活動状況
・31 の調査研究委員会による国際的な技術交流
・国内外で活躍する技術者・研究者の紹介
・注目のプロジェクトや最先端の土木技術のご紹介 など

「今」の土木界を、わかりやすく・楽しくお伝えしていきます。
ぜひ皆さまからのご感想やリクエストもお寄せください！

今号（No.151）の注目記事

1)【就任の辞】第 114 代会長 小澤一雅 ～次世代へ繋ぐための三つの方針～
2)【開催報告】ノルウェー公共道路庁との海峡横断技術に関する共同セミナー
3)【開催報告】第 2 回外国籍技術者としてのキャリアパス」セミナー
4)【開催報告】アジア土木学協会連合協議会（ACECC）第 50 回理事会（ネパール・カトマンズ）

学会誌のご購読・お申し込みはこちら

■ 学会誌の定期購読や会員特典の詳細は、**土木学会入会案内** をご覧ください。
■ 入会して毎月学会誌を受け取る方は、**入会専用ページ（WEB 申込）** からお手続きいただけます。

【就任の辞】
「～次世代へ繋ぐための三つの方針～」



小澤一雅
（第 114 代土木学会会長）

このたび、会長に就任いたしました小澤一雅です。

伝統ある土木学会会長という重責を担うにあたり、その使命の重さに身の引き締まる思いです。大正・昭和・平成、そして令和と、激動の時代を駆け抜け、この土木学会を守り、育ててこられた歴代会長、そして諸先輩方のたゆまぬご努力に、改めて心より敬意と感謝を申し上げます。

現在の土木学会の活動は、一世紀以上にわたって受け継がれてきた「志」の積み重ねであり、社会から寄せられてきた「信頼」の
結晶です。

一方、私たちは時代の大きなうねりの中にいます。デジタル技術の発展や価値観の多様化により、これまでの正解が通用しない場面も増えています。

しかし、時代がどれほど変わろうとも、私たちが大切にすべき「根幹」は揺るぎません。初代会長古市公威が第一回総会講演で示した土木技術者は「いわゆる将に将たる人」として、100 周年記念事業で第 102 代磯部雅彦会長が示した「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」ことです。この普遍的な理念を羅針盤とし、持続可能な土木学会として進化し続けられるかどうかを、現在問われています。

就任にあたり、次の三つの方針で取組みを進めたいと思います。

第一に、「時代のニーズに応える革新への挑戦」です。これまでの実績を尊びつつも、慣例に縛られることなく、見直すべき慣習については柔軟に見直し、次世代へ繋ぐための新しい仕組み作りを推進してまいります。一方で、世代を超えた対話を促進し、ベテランの知恵と若手の情熱が融合する、より風通しの良い組織とすることが肝要と思います。

第二に、「連携による価値の創出」です。より複雑になっている社会課題を解決するためには、関係する皆様との対話を深め、学会内外との連携を図ることにより価値を創出することが必要不可欠です。
土木学会は、これを促進するネットワークの核となる役割を果たす必要があります。
次世代を担うリーダーたちがその機会に参画し、挑戦できる場を整えたいと思います。

第三に、「透明性の高い組織運営」です。公益法人として社会から託された信頼をより強固なものにするため、また、個々の活動が組織内外と連携し、価値を高められるようにするために、公正かつ開かれた運営が必要不可欠です。時代や社会の変化を敏感に捉え、常に自律的に進化し続ける組織となるよう運営のあり方を見直したいと思います。

現在私たちを取り巻く環境は、かつてないスピードで変化を続けています。少子高齢化、DX 推進、グローバル化、高齢化するインフラと地域コミュニティの再構築などの課題が山積みであり、まさに時代の転換点に立たされていると言っても過言ではありません。

このような不透明な時代だからこそ、土木学会が果たすべき役割は、これまで以上に重要です。
皆様の多様なお知恵と、確かな歩みが合わさって初めて、新しい次の 1 ページが刻まれます。

皆様の温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【開催報告】ノルウェー公共道路庁との海峡横断技術に関する共同セミナー



小沼 恵太郎
(海峡横断基礎検討 WG リーダー/
株式会社ベイカレント･コンサルティング)

国際センター「土木技術者の国際化実践小委員会」の「海峡横断基礎検討 WG」は、2026 年 6 月 10 日（水）、ノルウェー王国オスロにて、The Norwegian Public Roads Administration（ノルウェー公共道路庁：NPRA）を訪問し、Submerged Floating Tube Bridge（SFTB-浮体式水中トンネル）に関する共同セミナーを開催しました。



地方都市フレドリクスタ（Fredrikstad）の運河に架かる鋼コンクリート混合歩道橋



オスロ大聖堂とトラム

本セミナーでは、NPRA からノルウェーにおける道路整備の概要を紹介いただいた後、当小委員会から「海峡横断基礎検討 WG」で進めている研究内容を紹介し、活発な意見交換を行いました。

本セミナーを通じて、SFTB の構造のみならず、建設や維持管理の実現方法、建設におけるカーボンニュートラルの考え方、民間資金の活用方法、設計から建設、維持管理を通じたデジタルデータの活用方法等、これからの大規模公共事業の実現に向けた総合的な議論を通じて、多くの知見を得ることが出来ました。これらの知見を踏まえ、同 WG では 2026 年 12 月までの成果の取り纏めに向けて検討を進めます。



NPRA での会議の様子

■NPRA（NTNU）出席者
・Arianna Minoretti 博士
・Xu Xiang 博士

■JSCE 出席者
（現地参加）伊藤 彰、春日 昭夫、小沼 恵太郎、上仙 靖、村野 文哉
（オンライン）Aibek TOKTORBAI、川島 将太、四條 雅之

〇土木技術者の国際化実践小委員会サイト
https://committees.jsce.or.jp/kokusai14/



NPRA での会議後の集合写真

【記：小沼恵太郎
（株式会社ベイカレント・コンサルティング）

【開催報告】「第２回外国籍技術者としてのキャリアパス」セミナー



タン　イエン　シン
（外国人技術者サポートチーム/日本工営株式会社）

■開催概要
外国人技術者サポートチーム（ICES）は、2026 年 5 月 29 日、「第 2 回 外国籍技術者としてのキャリアパス」をテーマとしたセミナーを開催しました。
本セミナーは、昨年度の好評を受けて継続開催したもので、日本の建設業界で活躍する外国籍技術者が、キャリア形成における多様な選択肢や日本の職場文化への理解を深めることを目的としています。



講師 2 名からの基調講演の様子

昨年度は海外業務を中心としたキャリアパスを取り上げましたが、今年度は主に国内業務に従事する外国籍土木技術者を講師として招き、日本国内での実践

的なキャリア形成や成長の過程についてご講演いただきました。講演では、若手時代の苦労や挑戦、日本語能力の向上、資格取得への取り組み、上司や同僚との信頼関係構築など、ご自身の経験に基づく具体的なエピソードが共有されました。



また、セミナー後半にはパネルディスカッションを実施し、参加者と講演者とパネラー2 名を加え、意見交換を行いました。外国籍技術者が日本で働く上で直面する課題や工夫、今後のキャリア展望について活発な議論が交わされ、多様な立場からの経験や考え方を共有する貴重な機会となりました。

開催日時	2026 年 5 月 29 日（金） 15:00～17:30
会場	土木学会本部会議室（オンライン併用）
参加者数	約 68 名（会場 24 名／オンライン 44 名）
主催	外国人技術者サポートチーム(ICES)
プログラム	基調講演（2 件）、パネルディスカッション、意見交換会

■講演から得られた学び・気づき

参加者アンケートでは、「専門技術だけでなく、コミュニケーション能力や信頼関係の構築がキャリア形成において重要であることを学んだ」との意見が多く寄せられました。特に、日本語力や技術用語の習得、報連相を含む日本の業務スタイルへの理解が、成長や評価につながる点が印象に残ったとの声が見られました。

また、「困難に直面しても学び続ける姿勢が重要である」、「上司や同僚との信頼関係が仕事を進める上で大きな力になる」といった意見も多く、講師の実体験が若手技術者にとって大きな励みとなったことがうかがえます。さらに、外国籍技術者ならではの多様な視点や発想が組織の活性化や新たな価値創出につながることへの理解も深まりました。

参加者からは、「外国籍技術者だけでなく日本人社員にとっても学びの多い内容だった」「今後もさまざまな立場で活躍する外国籍技術者の話を聞きたい」といった声が寄せられ、相互理解とキャリア形成を促進する有意義な機会となりました。



パネルディスカッションの様子

■今後の ICES の活動

ICES では、キャリア形成に関するセミナーに加え、建設・インフラ分野への理解を深める現場見学会や会員同士の交流イベントも開催しています。外国籍技術者と日本人技術者が経験や考え方を共有し、ネットワークを広げる場を提供することで、多様な人材が活躍できる業界づくりを目指しています。

今後のイベント情報や活動報告は、ICES ホームページおよび Facebook で随時発信しています。ぜひご覧いただき、積極的なご参加をお待ちしております。

〇外国人技術者サポートチームサイト：
https://committees.jsce.or.jp/kokusai13/f_e_support_team2

〇Facebook ページ：「International Civil Engineer Support Group Japan -JSCE」で検索

〇お問合わせ：
iad@jsce.or.jp（土木学会 国際センター事務局）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【記：タン イェン シン/日本工営株式会社

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【開催報告】アジア土木学協会連合協議会（ACECC）第 50 回理事会（ネパール･カトマンズ）



（井上雅志
（ACECC 担当委員会幹事長/
（株)エイト日本技術開発）

■概要

アジア土木学協会連合協議会（The Asian Civil Engineering Coordinating Council, ACECC）は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として 1999 年 9 月に設立された組織である。現在は加盟する土木関連学協会 17 団体の協力により学術･技術の促進に向けた諸活動を進めている。ACECC の最高議決機関である理事会（Executive Committee Meeting, ECM）は加盟学協会の持ち回りで年に 2 回開催されている。第 50 回目の理事会は、ネパール技術者協会(Nepal Engineer’s Association)ホストの下、2026 年 4 月 22 日から 24 日にかけてネパール･カトマンズの Royal Tulip Hotel にて開催された。土木学会（JSCE）からは、加藤浩徳 JSCE 代表（東京大学）、大原美保委員長（東京大学）、筆者が現地参加した。本稿ではこれらの会議について報告する。

■第 50 回理事会(ECM)

今回の ECM から ACECC は新たな執行体制へ移行した。新体制は、2028 年に開催予定の第 11 回アジア土木技術国際会議（CECAR11）を主催する台湾の中国土木水利工程学会（CICHE）を中心とするものであり、ACECC 議長には CICHE の Prof. Yu-Chi Sung 氏が就任した。

(1) 技術調整委員会（Technical Coordination Committee Meeting, TCCM）

新しい TCCM Chair は CICHE の Dr. Shieh-Kung Huang 氏が就任した。TCCM では、現在活動中の技術委員会（Technical Committee, TC）の活動報告が行われ、JSCE が Chair 及び Co-chair を務める TC21（Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters, Co-chair：石渡幹夫（明治大学））、TC28（Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance, Chair：山口栄輝（九州工業大学））、TC30（Digital Technologies for Smart Construction, Co-chair：全 邦釘（東京大学））、TC33（Advancing Artificial Intelligence Education in Civil Engineering, Co-chair：党紀（埼玉大学））についても活動状況が報告された。また、今回の TCCM において、新たに 4 つの TC が提案された。

- TC-37: Climate Adaptation and Sustainable Development in the Asia-Pacific Region (オーストラリアとニュージーランド両学会による共同提案)
- TC-38: Seismic Resilient Infrastructures for Sustainable Development (バングラデシュ･パキスタン･ネパール･ミャンマーの各学協会の共同提案)
- TC-39: Cascading and Compound Risk Assessment for Resilient Engineering (ネパール･インドネシアの両学協会の共同提案)
- TC-40: Hydropower Knowledge & Innovation Network (ネパールによる提案)

このように、複数の学協会の協働に基づくTCの活動が活発になっていることが最近のTC活動の傾向である。現在、JSCEからの参加メンバーを検討しているため、本活動に興味がある方は、ぜひご一報ください。

〇ACECC担当委員会サイト：
https://committees.jsce.or.jp/acecc/node/4

〇お問合わせ：
iad@jsce.or.jp（土木学会 国際センター事務局）



会議の様子

(2) 財務委員会 (Financial Committee Meeting, FCM)

財務委員会では、ACECCの直近の財務状況について報告と審議が行われ、関連事項が承認された。現体制による財務委員会は今回が最後となり、FCMの議長を務めた加藤浩徳JSCE代表の任期も終了した。加藤代表の任期中には、財務委員会の運営サイクルの確立、予算計画・会計報告の様式整備、中長期的な財務方針の検討など、ACECCの財務運営基盤を整備するためのさまざまな取り組みが進められた。これらの貢献に対し、ACECCの加盟学協会から高い評価と謝意が示された。なお、次期Chairには、韓国土木学会（KSCE）のDr. Moonkyung Chung氏が就任することが決定した。

(3) 企画委員会（Planning Committee Meeting, PCM）

PCMの議長にはCICHEのProf. Yuan-Lung Lo氏が就任した。PCMの主要議題の1つは傘下の小委員会の新体制であり、ACECC賞選考委員会(ACECC Awarding Sub-Committee)の議長にはフィリピン土木学会(PICE)のFrederick Sison氏が、ACECC Future Leaders Forumの議長にはアメリカ土木学会(ASCE)のMaqbool Mohammed氏がそれぞれ就任することが決定するなど全体的に若手・中堅世代への世代交代となった。

また、昨年10月に韓国・済州島で開催された第10回アジア土木技術国際会議(CECAR10)の最終報告が行われ、23の国と地域から計554人が参加したこと、さらに剰余金の一部である20,000USドルをACECCに拠出することが発表された。

(4) 理事会（Executive Committee Meeting, ECM）

ECMでは、TCCM、PCMでの決定事項が承認された。また、カンボジア土木学会(CSCE)のACECCへの加盟申請が審議された結果、加盟が認められた。これでACECCの加盟学会は計18となった。

また、第51回(2026年10月27日～10月30日)は台湾・台南で、第52回(2027年4月8日～10日)はインド・アフマダーバードでそれぞれ開催されることが報告された。また、2028年の第11回アジア土木技術国際会議(CECAR11)の準備状況が報告され、2028年11月13日～18日にTaiNEX (Taipei Nangang Exhibition Center)で開催されることが発表された。



会議の様子

(5) 各種セミナーの開催

ECM の 2 日目には、「International Conference on Sustainable, Resilient and Digital Infrastructure」と題した国際会議が開催された。技術セミナーでは、TC26（Climate Change, Water Resources, and Sustainable Development in the Asian Region）、TC31（Sustainable Infrastructure Capacity Building）および TC33（Advancing Artificial Intelligence Education in Civil Engineering）による合同セッションのほか、TC30（Digital Technologies for Smart Construction）と TC34（Digital Transformation for the Sustainable Built Environment）による BIM とデジタル変革に関するセッション、若手技術者による Future Leaders Forum（FLF）セミナーなどが行われた。気候変動、人材育成、AI、BIM、デジタルツイン、文化遺産保全などについて幅広い発表と討議が行われ、教育・技術・実務を結び付けた持続可能で強靭なインフラ整備の方向性が共有された。

また、2015 年のネパール・ゴルカ地震から約 10 年が経ち、復興の過程と教訓を振り返るセミナー「From Ruins to Resilience: Lessons from the 2015 Gorkha Earthquake and Beyond」も併せて実施された。

■今後に向けて

ACECC は、本会議を機に新たな執行体制へ移行し、執行部や傘下組織において若手・中堅世代への世代交代が進んだ。また、最近は 2025 年ミャンマー地震やネパールにおける建築物の火災被害を対象とした Knowledge Sharing Seminar が精力的に開催されるなど、ACECC を核とする多様な知見共有・連携活動が展開されるなど、ACECC の活動が新たな段階に入ったと感じている。今後も、加盟学協会間の双方向の協力と協働が一層活発になるよう、引き続き活動を進めていきたい。

【記：井上 雅志（株式会社エイト日本技術開発）



ECM 後の集合写真

お知らせ

■国際・委員会ニュース

◆IABSE ニュースレター Newsletter August 2026

▶詳細：https://www.iabse.org/Newsletter

◆ASCE magazine "Civil Engineering Source"

▶詳細：https://www.asce.org/publications-and-news/civil-engineering-source

◆ 国際センター通信 No.151

▶日本語：https://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_news_151

▶英語：https://www.jsce-int.org/pub/iacnews/151

■イベント、セミナー情報、案内等

◆IEEE International Conference on Electrical, Computer and Energy Technologies(ICECT 2026)

・日時：2026 年 10 月 15-17 日

・開催地：インドネシア・バリ島

▶詳細：https://www.iceccme.com/2026

◆ICES FIELD TRIP（現場見学会）

・日時：2026 年 10 月 16 日

・開催地：山梨県・大月エリア

▶詳細：https://committees.jsce.or.jp/kokusai13/node/24

◆MLIT Lunchtime Session 2026 for International Students and Researchers

・日時：2026 年 10 月 19 日

▶詳細：https://committees.jsce.or.jp/kokusai13/node/25

・開催地：Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT)

◆The 8th JSCE-CICHE Joint Workshop

・日時：2026 年 11 月 5-8 日

・開催地：関西国際空港、琵琶湖疏水施設 南禅寺水路閣、京都大学 吉田キャンパス

▶詳細：https://committees.jsce.or.jp/kokusai0901/node/18

投稿・寄稿の募集

本誌では、皆さまからの活動報告やコラム、研究紹介などの**ご寄稿を随時受け付けております**.

分量等は問いませんので、お気軽に**土木学会事務局**までご連絡ください。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

・【送付先・問い合わせ】（公社）土木学会　国際センター：iad@jsce.or.jp

▶詳細：https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

読者アンケート・ご意見募集

紙面へのご感想やご意見をお寄せいただけますと幸いです。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

アンケートフォームはこちら▶ https://forms.gle/M6UVUUqM37Ak6mDK7

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

配信申込み

「国際センター通信」の配信申込みを受け付けております。

お申し込みいただくと、新号発行時にご登録のメールアドレスへ直接お届けします。

【申し込みフォーム】

◆日本語版：http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31

◆英 語 版：http://www.jsce-int.org/node/151

SNS・Web 情報

直近の国際センターの活動を紹介しています。

◆【土木学会 Web サイト（英語）】　https://www.jsce-int.org/

◆【土木学会 Web サイト（日本語）】　https://www.jsce.or.jp/

◆【国際センターWeb サイト】 https://committees.jsce.or.jp/kokusai/

◆【Facebook】 https://www.facebook.com/JSCE.en/?locale=ja_JP

◆【YouTube】

https://youtube.com/channel/UCGIs6DHrzX_cGDmHUrRlkA?feature=shared